

記録
フィルム
カラー／33分

- 企画
(財)ボーラ伝統文化
振興財団
- 監修
高橋秀雄(日本伝統
芸能研究所所長)
- 撮影協力
愛知県
豊根村教育委員会
東栄町花祭り会館
足込花祭保存会
下黒川花祭保存会

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本・演出
大島善助
- 撮影
村山和雄
山屋恵司
- 照明
水村富雄
- 録音
堀内戦治
- 音楽
角田 敦
- ネガ編集
加納宗子
- 現像
ソニー PCL
- 解説
鈴木瑞穂

文部省選定 優秀映画鑑賞会推薦

天竜川の上流、険しい山々が連なる愛知県奥三河。そこには、人々の平安と繁栄を願って花祭(はなまつり)が伝承されている。1976年(昭和51年)、国の重要無形文化財に指定され、現在も11月から翌年の3月にかけて17ヵ所で催される。

映画では、長い伝統の中に生き続けてきた祭りを見つめ、その起源と民俗の心を探っていく。



古来より日本人は、花には神が宿り、その勢いが盛んなときに花は咲き、衰えたときに散っていくと信じてきた。花の勢いの最も衰える霜月から正月にかけて、花のよみがえりを願って行われる奥三河の花祭を、愛知県北設楽郡東栄町の足込と、豊根村の下黒川に訪ねた。

まず土地の地主神が祭場の花宿に迎えらる。祭りの司祭者である花太夫は、荒ぶる精霊を封じ込め、屋敷神をはじめ様々な神を招きよせる。そして、祭場に据えられた釜の湯で清め祓いをし、夜を徹して数々の舞が始まる。最初に、青年の中から選ばれた舞手が舞う「市の舞」、二人で舞う「地固めの舞」。さらに稚児による「花の舞」と舞いが続く。舞いながら、激しく体を屈伸させて大地を踏みしめ横に翔ぶ「ヘンベ」(反閤 [へんぱい]) と呼ばれる動作は、悪霊を地下に封じ込める意味を持つ。ここにも、日本古来の山岳信仰である修験道の影響が残されている。

真夜中。祭場では、少年の「三つ舞」が続いている。巫女や翁が訪れ、「山見鬼」「榊鬼」などの鬼もまた、農民に良くしてくれる山の神として祝福の舞をみせる。夜の明ける頃、釜の湯を藁を束ねた湯たぶさ(タワシ)で振りかける「湯ばやし」となる。浴びせる湯の蒸気と、無病息災・五穀豊穡を願う人々の熱気とが、祭場いっばいに立ちこめる。